

Institute for Advanced Social Sciences
早稲田大学 先端社会科学研究所

— 公開講演会 —

ゲノム編集の倫理

遺伝子工学に関する議論における
自然さ(naturalness)の価値

本年1月に厚生労働省の専門委員会がとりまとめた報告書では、ゲノム編集のヒト受精胚への臨床応用について法律による規制が必要であるとの見解が示されました。報告書はその理由として、次世代以降へ引き継がれた際の影響等の社会的倫理的課題が不明である点を挙げていますが、倫理的課題について掘り下げた議論はなされていません。

本講演では、自然さ(naturalness)という観点からゲノム編集などのゲノム配列への人為的な介入を倫理的・道徳的にどう評価するかを考えます。



講師：Jan Deckers氏

ニューカッスル大学医学部上級講師

※英語での講演になります

2020年 2月28日(金) 13:00 – 15:00

早稲田大学 早稲田キャンパス

8号館 3階 308教室

・東京メトロ東西線「早稲田」3a出口徒歩5分

・都電荒川線「早稲田」徒歩5分

入場無料
事前登録不要

主催：早稲田大学 先端社会科学研究所
共催：早稲田大学 比較法研究所

問合せ： iass@list.waseda.jp
(早稲田大学先端社会科学研究所)

本講演会は以下の研究課題による研究の一環として行います。

- ① JST-RISTEX「イノベーションを支えるデータ倫理規範の形成」
- ② KDDI財団調査研究助成「医療情報の利活用に係る法制度に関する研究」
- ③ 三菱総研委託研究「ELSI/PRI過去ケースの知見整理追加調査」